

城西大学におけるスチューデント・インターンシップ事業への 取組み～平成23～25年度

北 川 浩 子

要 旨

城西大学では女子栄養大学とともに坂戸市及び坂戸市教育委員会の協力のもと、平成18年度より「坂戸市スチューデント・インターンシップ事業」を通して坂戸市内の小・中学校へ学生を派遣している。平成23年度から25年度はこの事業が始まってから6～8年目にあたり、教育委員会、小中学校、大学でそれぞれ一定のシステムが構築され、安定的な事業へと発展していったと思われる。学生たちにとっては教育実習に対する不安の軽減や目的意識をもって教員採用試験へ臨むことなど、この事業によって教職に対する思いを今一度考える良い機会になっている。

キーワード：学校インターンシップ、教員養成、資質向上、アクティブラーニング

1. はじめに

平成18年に坂戸市と城西大学及び女子栄養大学との間で「坂戸市スチューデント・インターンシップ事業に関する協定書」が締結し、現在まで坂戸市教育委員会、各小・中学校の協力のもとこの事業が継続的に行われている。前回の報告では事業を始めるにあたっての背景や経緯について、また平成18年度から22年度までの5年間の城西大学の活動について報告した。今回は平成23年度から25年度までの事業の取組みと学生の活動について報告する。

2. 「スチューデント・インターンシップ事業」の取組み

2.1 実施要項について

平成18年より行われてきたこの事業は坂戸市スチューデント・インターンシップ事業においてその実施要領が平成23年度に一部改正され、平成24

年度においてそのリーフレットが図1のように修正された。

2.2 年次計画について

推進委員会ではそれまで行ってきた内容を検討し、平成23年度から25年度までの3年間で計画の見直しを行っている。1つ目は女子栄養大学の早期活動開始である。これは4月初めに行う身体測定などの補助を行えるようにすることで、養護教員養成の充実を図ることを目的としている。2つ目はアンケート実施時期の変更である。事業発足時は年度内にアンケートを集計し、推進委員会での現状の把握と次年度への対応を協議するために、12月にアンケートを実施していた。しかし、12月はまだ活動が終了していないことから行った回数などが正確に出ないことやアンケート回答後に行われたことが把握できないことからアンケート実施時期を活動終了後（1月）にし、2月の推進委員会でアンケート内容の報告と検討を行い、対応を協議することにした。

坂戸市スチューデント・インターンシップ事業図解

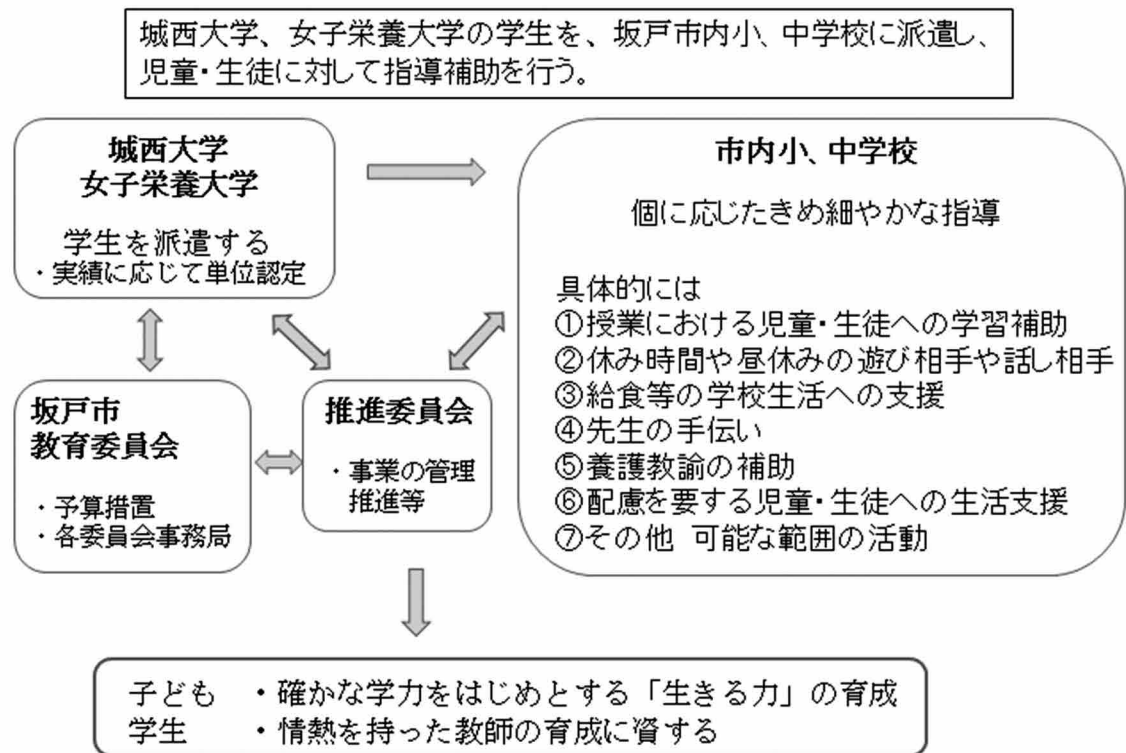


図1 スチューデント・インターンシップ事業のリーフレット

3. インターンシップ生の活動報告

表1. 活動人数

	平成23年	24年	25年
城西大学	39	28	39
女子栄養大学	67	76	74

3.1 人数及び配置校について

活動人数を表1に、城西大学生の配置校別の人数を表2に示した。表1に示すように、両大学ともに人数の増減が少なく小中学校への配置が安定的に行われるようになった。また、平成23年度から北坂戸中学校と泉中学校が統廃合され桜中学校となり配置校の数は20校となった。それまでと同様に城西大学では大家小学校と城山小学校、中学校では浅羽野中学校と城山中学校への配置が多いことを示した(表2)

表2. 配置校とその人数

学校名／年度	平成23年	24年	25年
坂戸小学校			4
三芳野小学校			
勝呂小学校			
入西小学校			2
大家小学校	4	4	3
城山小学校	9	9	9
浅羽野小学校		1	
北坂戸小学校	1		
千代田小学校	1		
泉小学校			
片柳小学校			
南小学校	2		
上谷小学校			
坂戸中学校	2		4
住吉中学校	3		
若宮中学校	4	3	3
城山中学校	5	4	8
千代田中学校	1		
浅羽野中学校	6	5	6
桜中学校	1	2	

3.2 アンケートについて

学生へのアンケートは平成22年度までと同様の内容で行い、表3に理学部のアンケート集計結果を示した。また、記述式アンケートとして「感想」についての内容を示した。平成22年度までの結果（北川，2017）と同様に子供との対応の仕方を学ぶことや先生の指導方法を学ぶことを目的としている学生が多くを占め、その目的はほぼ達成できたということが示された。また、感想等からもうかがえるように学生にとってはこの活動から得られるものが多く、教育効果があることが示された。

表3. アンケート集計結果（％）

参加した目的(複数回答)				
	平成23年	24年	25年	
子供との対応の仕方を学ぶ	71	88	84	
子供の実態を知る	41	65	53	
先生の指導方法を学ぶ	88	100	89	
教育実習への不安を軽減させる	29	41	21	
目的は達成できたか				
	平成23年	24年	25年	
充分できた	41	71	47	
できた	53	29	53	
合計	94	100	100	
活動の内容(複数回答)				
	平成23年	24年	25年	
学習補助	100	94	95	
休み時間の遊び相手や話相手	47	47	79	
給食、清掃活動等の補助	6	18	5	
部活動等の教師の補助	0	6	5	
総合的に考えて参加して良かったか				
	平成23年	24年	25年	
良かった	94	94	100	
どちらとも言えない	6	6	0	
良くなかった	0	0	0	

記述式アンケート

感想

・生徒と直接ふれ合うことで、生徒への対応の仕方や指導方法など、インターンシップに参加しなければ得られない体験ができました。これを機に改めて教員という職業に憧れをもちました。とても良いモチベーションになっています。

・最初は戸惑いもありましたが、次第になれてきて積極的に行動できるようになり、とてもためになりました。

- ・先生方の教え方、子どもの接し方、教えることの難しさなどを学んだ。
- ・教員を目指す気持ちが強くなった。
- ・教育実習への不安を減らすことが出来た。
- ・大学の授業では学べないことを学んだ。
- ・教育実習とは異なり、1年という長い期間で関わることができ、大変良い経験となった。
- ・活動時間が少なかったことから、限られた先生や生徒としか関わることができなかった。
- ・生徒とのコミュニケーションの重要性を知った。
- ・いろいろな科目に参加でき貴重な体験となった。

4. まとめ

教育委員会では大学生、児童・生徒、教職員、保護者に対してアンケートをとっており、平成23年度にその成果と課題として次のようにまとめている。

「この事業が6年目となり、各学校での受け入れについて課題となっていた打合せについては、学校ごとに工夫し実施できるようになっている。学生の来校に関しては、毎年、小学校は児童・教職員とも8～9割、中学校は5～6割が有意義としている。これらは、学生の様子を良いとする学校の割合とおおよそ同じ割合となっている。学生に関しては毎年、参加した学生のほぼ全員が目的を十分に達成している。保護者に関しては、この事業が半数の割合でまだ知られていない。今後も保護者への周知を図っていく必要がある。また、中学校に関しては活動内容の見直しを図り、より事業の充実を目指す。」

さらに平成24年度にスチューデント・インターンシップ事業の効果を次のようにまとめている。

《効果》

児童・生徒

- ・個に応じて教えてもらえる。
- ・休み時間等に遊んでもらえてうれしい。
- ・友達のように相談に乗ってくれるので、色々なことを相談しやすい。
- ・給食や清掃も一緒にやってくれる。

学校（教職員）

- ・刃物を使う技術の授業や理科の実験等、複数の目で対応できる。
- ・学校も活気づき、全体的に目がいき届いている。

保護者

- ・生徒一人一人面倒を見てもらえて有難い。

学生

- ・教育実習を前に学校現場の様子がわかるので有難い。
- ・教師を目指しているので、指導の仕方等勉強になる。
- ・実績が単位認定される。

平成23年度から25年度はこの事業が始まってから6～8年目にあたり、学校側も大学側も対応の仕方に慣れてきたこともあり、安定した事業になりつつあることが伺える。双方の立場を理解し、より良いものにしていく努力は今後も必要であると思われるが、1年間を通して行うこのスチューデント・インターンシップ事業は学生たちにとってとても良いモチベーションになっており、昨今取り上げられているアクティブラーニングとして評価に値するものと考えられる。

【参考文献】

北川 浩子（2017）城西大学におけるスチューデント・インターンシップ事業への取り組み、教職センター紀要 創刊号，p. 45－54.